第　５　２　号
（通算第１０５号）
令和5年2月27日（月）
大崎市立沼部小学校
校長　吉　田　浩　之

校長室だより

あの日を忘れない①

先日の学習参観には多くの保護者の皆さまにお越しいただき，子供たちの様子をご覧いただきました。子供たちは，張り切って学習に臨んでいました。参観，そして懇談会と出席いただき，ありがとうございました。

さて，２０１１年（平成２３年）３月１１日午後２時４６分，かつて経験したことのないような揺れが太平洋沿岸を襲い，大津波が発生しました。東日本大震災の発生からもうすぐ１２年となります。６年生は，その当時まだ１歳にもなっていない，あるいはもうすぐ産まれるというような状況だったと思います。ですからほとんど記憶に残っていないかもしれません。今の６年生が卒業すると，小学校では，子供たち全員震災後産まれということになります。そのために，あの震災を経験した人たちが，子供たちにしっかり伝えていかなければならないと思います。

平成２３年８月に発行された，文藝春秋８月臨時増刊号「つなみ　～被災地のこども８０人の作文集～」から，当時の小学生が書いた作文を紹介します。

「学校の２階まで上がってきたつなみ」　　橋浦優香（名取市　閖上小学校６年）

３月１１日の地しんが発生した日，私は教室を出て，学校のそうじをしていました。みんなが「地しんだ」と言ったとたん，強いゆれが発生し，私は急いで教室にもどりました。友達と手をつなぎ，ずっと続いた地しんをたえていました。そして教室の中はいろんな物がたおれて，ぐちゃぐちゃになっていました。地しんの次は大つなみ警報が出てきました。外から走ってくる人が，「つなみだ」とさけんでいる声が聞こえ，私は屋上に走ってひなんしました。その時は，つなみが来ていてくるまやがれきが流れてくるし，人はおぼれているしで，本当に，こわくて悲しい気持ちでいっぱいでした。つなみは，学校の２階まで上がってきました。海の方を見ると今度は火事で火がたくさんの所に広がっていました。また地しんは発生するし，さらに雪もふってきてとてもこおるような寒さの中，つなみが引くのを見ていました。そして，つなみは引かないまま，３階の教室で夜を過ごしました。夜はとても寒く，ぜんぜんねむれませんでした。ただ燃えている方を見ながら「夢みたいだね。」「本当に現実なのかな。」と友達と話しているばかりでした。私にとって，この日のことは一生忘れられない出来事です。

私の家も流されてありません。宝物も流されてしまいました。私が育った閖上がこんなにも変わってしまって悲しいです。つなみは，こんなにおそろしいのだなと思いました。

１か月以上たっている今も，行方不明の方がたくさんいます。私の友達や先ぱいも死亡や行方不明になっている人がいます。私の家族はみんな無事でした。助けられた命を大切にこれからがんばって生きていこうと思いました。あと早く閖上が前みたいに戻ってほしいと思いました。

トルコ・シリアで大きな地震が発生し，５万人以上の人が亡くなっていると報道されています。被災地の１日も早い復旧・復興を願ってやみません。

田尻地域は津波の被害に遭うことはまずないでしょう。それでも建物の倒壊等は発生するかもしれません。「自分の命は自分で守る」ことに意識を向ける一つの手段となることを願って，何回かに分けて震災当時の様子をお知らせしようと思います。